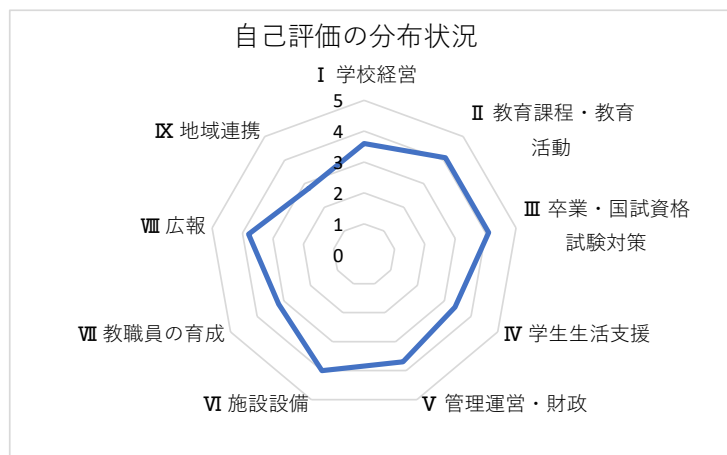


# 令和4年度 郡山看護専門学校 学校評価 概要 【看護学科】

- 全体像で評価が高いⅡの教育課程・教育活動については、新カリキュラムについて多くの検討をし作成したこと。Ⅲの卒業・国家試験対策については卒業生の国試合格が100%であったことが影響していると考え。次に高かったⅥの施設設備では、学校周辺の除草について業者委託で行い環境がよくなったこと、図書室の改修が終わり学修環境が改善されたことによるものと考え。
- 特に低いのは昨年同様Ⅸの地域連携であるがコロナ禍の影響が大である。

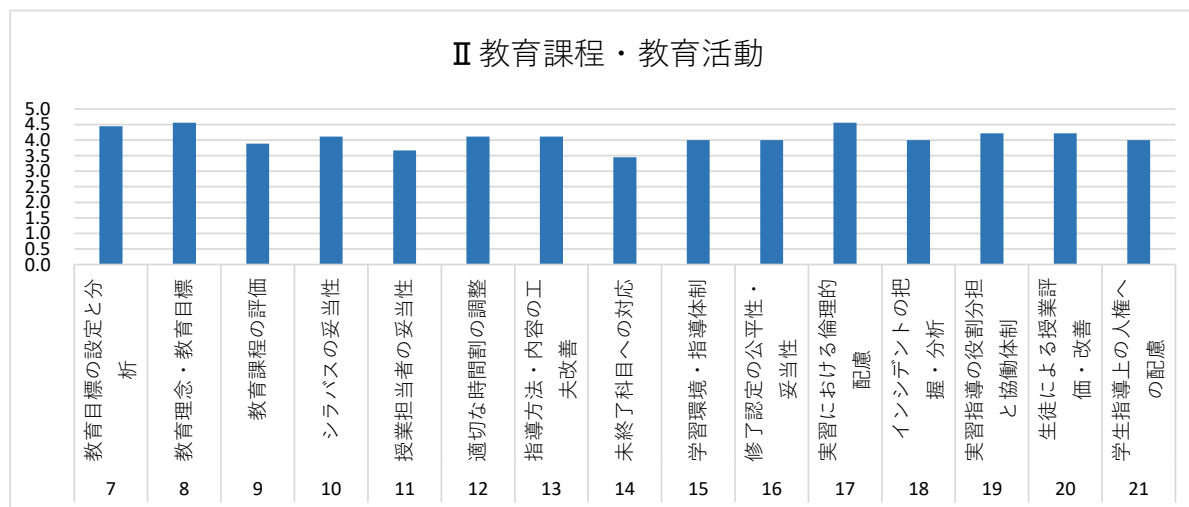
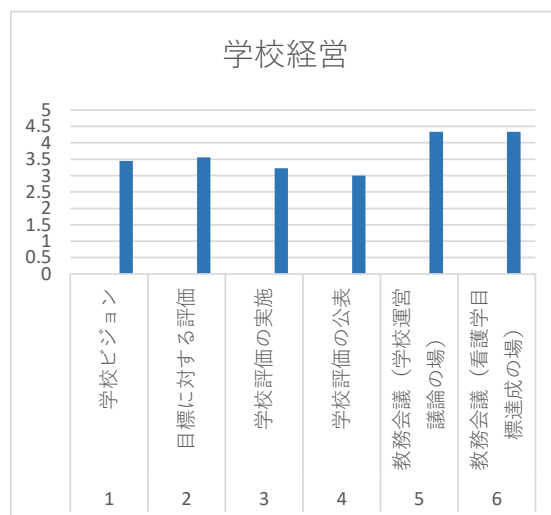
## 1 全体評価

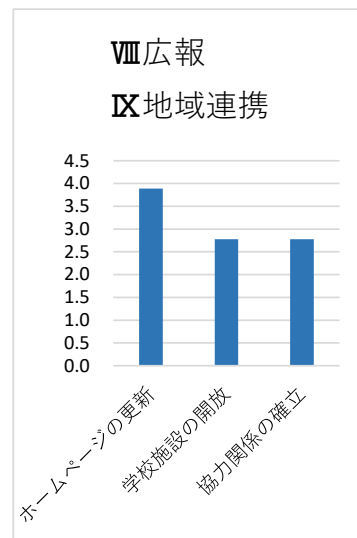
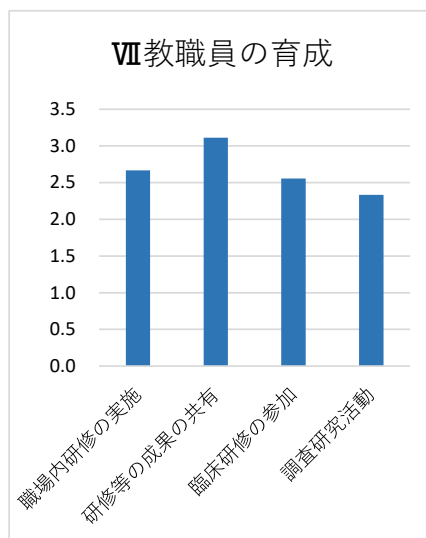
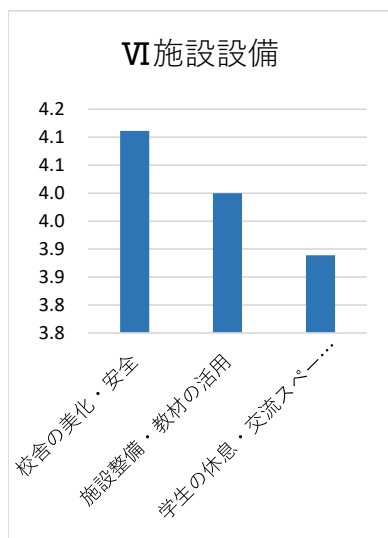
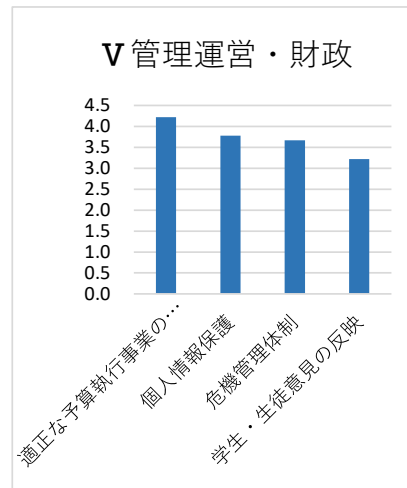
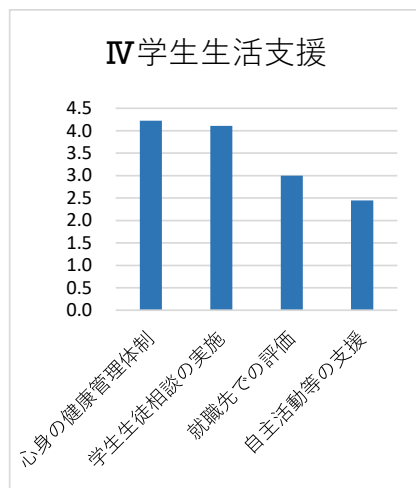
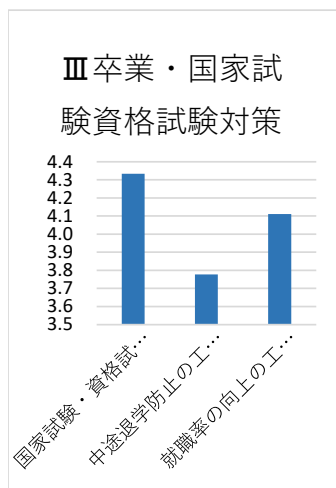
|                 |     |
|-----------------|-----|
| I 学校経営          | 3.6 |
| II 教育課程・教育活動    | 4.1 |
| III 卒業・国試資格試験対策 | 4.1 |
| IV 学生生活支援       | 3.4 |
| V 管理運営・財政       | 3.7 |
| VI 施設設備         | 4   |
| VII 教職員の育成      | 3.2 |
| VIII 広報         | 3.8 |
| IX 地域連携         | 2.8 |
| 平 均             | 3.6 |



## 2 各分野の評価

- Iの学校経営は、年度の目標や評価内容を職員全員に周知し、予算等の執行状況も見える化している。
- IIIの卒業・国家試験資格試験対策で特に国家試験は全員合格が達成できた。また教育課程の検討においては領域の教員が中心となって見直した。
- 管理運営・財政は、案の段階から見える化を行い執行状況が明白となっている。





### 3 今後に向けて

- 1.評価を行うに当たりカリキュラム改正の検討時期であったため、学校の設立趣旨や理念を確認する機会も多く含め当事者意識を持った評価ができたと考える。
- 2.改めて年間の振り返りも出来た。また、特にコロナ禍で評価の低かった地域連携においては意識して今後の経過を見ていきたい。

## 学校関係者評価 【学校全体】

### 〔管理運営について〕

#### I 学校運営 / V 管理運営・財政 / VI 施設管理 / VIII 広報 / IX 地域連携

○学校運営については、年度の目標や計画、予算及び執行状況などの見える化を図った。

○カリキュラム（教育課程）の改正にあたり、多くの検討をする中で、学校の設立趣旨や理念を共有できたことは評価できる。

○福島県離職者等再就職訓練事業の受託については、昨年度に比べ受入れ訓練生数が増え、学生確保の重要な施策になっていることから、今後においても福島県やハローワークとの連携を図り、事業の更なる拡充に努めること。

○「高等教育無償化機関要件の確認承認」については、確認校として承認されたことから、令和5年度以降における「学習意欲のある学生」への経済支援に期待する。今後の支援実務に向け準備を進めること。

○管理運営・財政については、学生数の減少により昨年度に比べ収入は減少したものの、支出削減により概ね、適正な予算執行となっている。ただし、引き続き、入学生確保による財源確保及び学生支援の充実に取り組むこと。

○郡山医師会会員及び病院等への入学生募集・寄附依頼については、入学生の掘り起こしや、寄附金による増収に繋がっており、新たな取組として評価できる。今後においても継続して実施すること。

○施設管理については、福島県沖地震の被害に遭った図書室の改修により学修環境が向上した。今後においてもICTを活用した教育などの施設整備に取り組む必要がある。

○各種広報活動については、郡山医師会立の看護学校の周知及び入学生の確保に寄与していることから、今後も広報の強化に努めること。

○地域連携については、コロナ禍において制限されてる中、地域病院の奨学金情報や求人情報の共有により、地域医療機関等への就職を促すとともに、郡山市医療介護病院との合同防災訓練の実施、地域医療機関等へ教室や機材等の貸出しなど、できることに取り組んでいる。

### 〔教育活動について〕

#### II 教育課程・教育活動 / III 卒業・国家試験資格試験対策 / VII 教職員の育成

○カリキュラム改正に際しては、領域の担当教員が中心となり、一貫性のある教育内容となるよう何度も話し合いの場もたれ、教育目標の設定などに反映されている。

○近年、確保が難しくなっている臨地実習施設の依頼にあたっては、学校だけではなく学校運営委員会委員等を中心に、医師会会員との協力により謝金等を見直すなど改善が図られたが、今後も引き続き体制構築を図りたい。

○卒業・国試資格試験対策は、全員合格に向け、各領域の教員による試験対策を十分に行うことで、合格率100%を達成することができた。

○教職員の育成については、専任教員養成研修会の出向や年間計画に沿った研修受講は行われたが、職能団体等の研修会へは自主的な参加がなく、研究等の実施もなかった。今後は職能研修など様々な研修へ主体的に参加・受講を促し、専門性の維持、向上に努める必要がある。